

## 主要行等の令和2年3月期決算の概要

### 1. 損益の状況（グループ連結ベース）

○ 令和2年3月期は、国内の低金利環境の継続が資金利益の下押し要因となったことに加え、引当金の増加により与信関係費用が増加したこと等により、当期純利益は前年に比べ▲3.0%の減少。

（単位：億円）

	H30年3月期	H31年3月期	R2年3月期	前年比
連結業務粗利益	102,995	100,209	105,022	4,813
資金利益	48,306	47,718	46,440	▲1,278
役務取引等利益	35,039	34,982	35,521	539
その他業務利益	8,064	6,893	10,367	3,475
うち債券等関係損益*	▲96	▲588	7,448	8,036
経費	▲68,901	▲68,356	▲69,708	▲1,352
連結業務純益	35,067	32,915	35,952	3,037
コア業務純益*			13,534	
コア業務純益*（除く投資信託解約損益）			13,229	
与信関係費用**	53	▲1,702	▲6,830	▲5,127
株式等関係損益	5,629	5,404	3,046	▲2,358
親会社株主に帰属する当期純利益	27,853	21,334	20,697	▲637

\*債券等関係損益、コア業務純益については銀行単体ベース。\*\*与信関係費用について、正の値は益を、負の値は損を表す。

（参考）	H30年3月末	H31年3月末	R2年3月末
貸出金（末残）***	296.9兆円	305.2兆円	314.7兆円

\*\*\*貸出金は銀行単体ベースの銀行勘定計。

### 2. 不良債権の状況（銀行単体ベース）

○ 不良債権額は平成31年3月期に比べ増加、不良債権比率は上昇。

	H30年3月期	H31年3月期	R2年3月期
不良債権額	2.2兆円	2.0兆円	2.1兆円
不良債権比率	0.66%	0.58%	0.59%

### 3. 自己資本比率の状況（グループ連結ベース）

○ 国際統一基準行の総自己資本比率、Tier1比率、普通株式等Tier1比率は、平成31年3月期に比べ低下。

○ 国内基準行の自己資本比率は、31年3月期に比べ上昇。

（国際統一基準行：4グループ）

（国内基準行：3グループ）

	H31年3月期	R2年3月期
総自己資本比率	17.83%	17.00%
Tier1比率	15.39%	14.60%
普通株式等Tier1比率	13.31%	12.77%

	H31年3月期	R2年3月期
自己資本比率	10.52%	11.04%

（注1）記載金額・比率は、四捨五入して表示。

（注2）グループ連結ベースは、みずほFG、三菱UFJFG、三井住友FG、三井住友トラストHD（以上、国際統一基準行）、りそなHD、新生銀行、あおぞら銀行（以上、国内基準行）を対象とする。

（注3）銀行単体ベースは、みずほ銀行、三菱UFJ銀行、三井住友銀行、りそな銀行、三菱UFJ信託銀行、みずほ信託銀行、三井住友信託銀行、新生銀行、あおぞら銀行を対象とする。